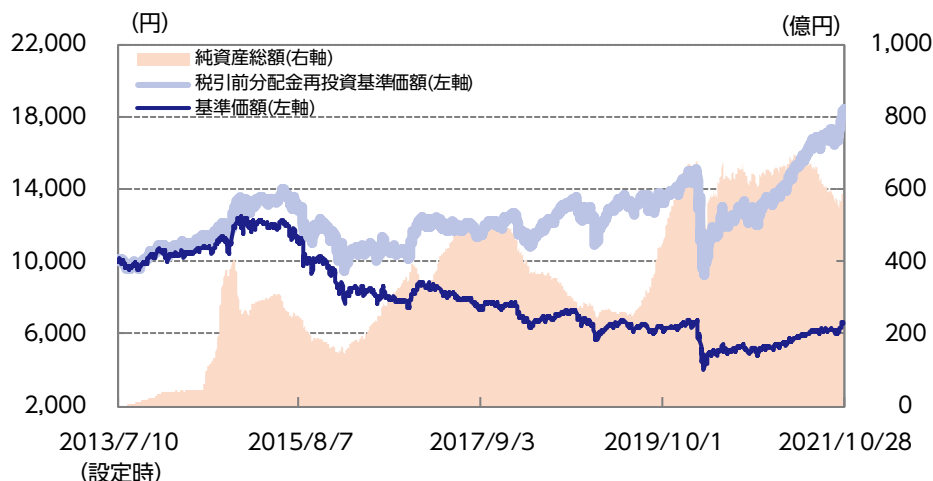




## 運用実績 毎月決算型

### 基準価額・純資産の推移



### 基準価額および純資産総額

基準価額	6,573円
前月末比	505円
純資産総額	577億円
主要投資対象ファンドのマザーファンド(※)純資産総額(参考)	944億円

※LM・アメリカ高配当株マザーファンド

### 分配の推移 (1万口当り、税引前) (※)

第94期	2021年04月	50円
第95期	2021年05月	50円
第96期	2021年06月	50円
第97期	2021年07月	50円
第98期	2021年08月	50円
第99期	2021年09月	50円
第100期	2021年10月	50円
直近1年間累計		600円
設定来累計額		7,790円

※当ファンドは毎月28日決算です。28日が休業日の場合、翌営業日に支払われます。そのため、同月に2回分配が行われる場合があります。

### 基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンド	8.3%	9.0%	17.0%	51.2%	47.2%	83.3%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は実質的な信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります(個人受益者の場合)。

※ファンド騰落率は分配金(税引前)を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りと異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

### 組入比率

LM・アメリカ高配当株 ファンド(毎月分配型) (適格機関投資家専用)	99.0%
ニッセイマネーマーケット マザーファンド	0.0%
短期金融資産等	1.0%

※対純資産総額比

### 基準価額の変動要因

	1カ月	設定来
株式要因	425円	4,213円
為替要因	96円	1,624円
その他(信託報酬等)	-16円	-1,474円
小計	505円	4,363円
分配金	-50円	-7,790円
合計	455円	-3,427円

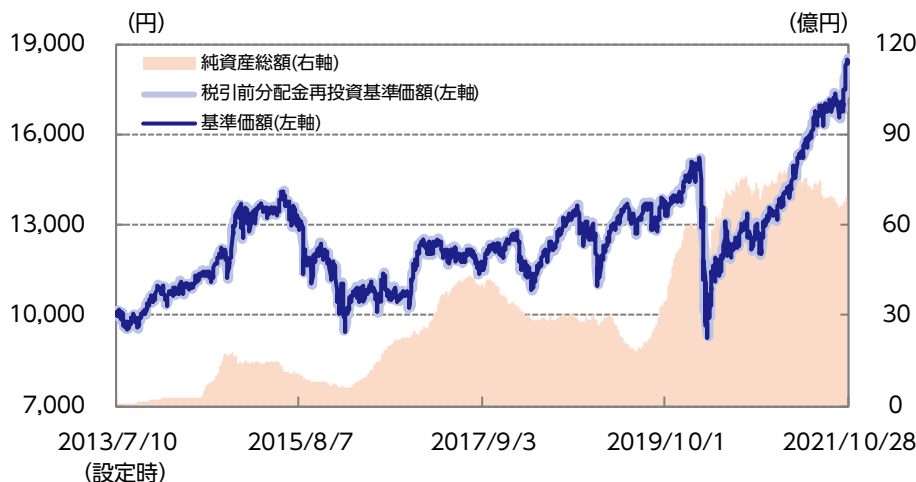
※要因分析は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

※各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、各項目の合算は必ずしも合計とは一致しません。

※株式要因、為替要因は、フランクリン・テンプレートン・ジャパン株式会社の資料に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

## 運用実績 年2回決算型

### 基準価額・純資産の推移



### 基準価額および純資産総額

基準価額	18,416円
前月末比	1,410円
純資産総額	69億円
主要投資対象ファンドのマザーファンド(※)純資産総額(参考)	944億円

※LM・アメリカ高配当株マザーファンド

### 分配の推移 (1万口当り、税引前)

第10期	2018年06月	0円
第11期	2018年12月	0円
第12期	2019年06月	0円
第13期	2019年12月	0円
第14期	2020年06月	0円
第15期	2020年12月	0円
第16期	2021年06月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

### 基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	8.3%	9.0%	17.1%	51.5%	46.7%	84.2%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は実質的な信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります(個人受益者の場合)。

※ファンド騰落率は分配金(税引前)を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

### 組入比率

LM・アメリカ高配当株 ファンド(毎月分配型) (適格機関投資家専用)	98.8%
ニッセイマネーマーケット マザーファンド	0.0%
短期金融資産等	1.2%

※対純資産総額比

### 基準価額の変動要因

	1ヵ月	設定来
株式要因	1,181円	8,592円
為替要因	267円	1,975円
その他(信託報酬等)	-39円	-2,151円
小計	1,410円	8,416円
分配金	-円	0円
合計	1,410円	8,416円

※要因分析は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

※各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、各項目の合算は必ずしも合計とは一致しません。

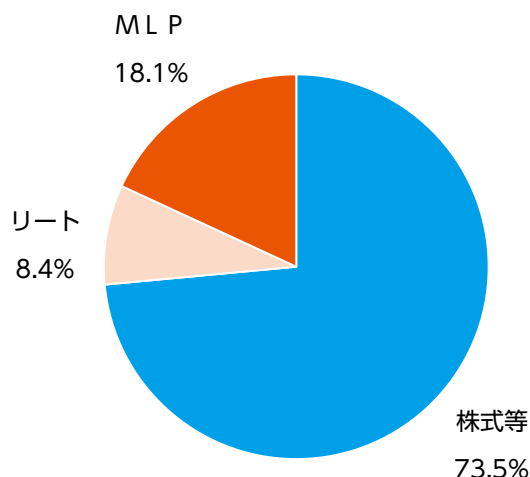
※株式要因、為替要因は、フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社の資料に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

## 投資対象ファンドの状況

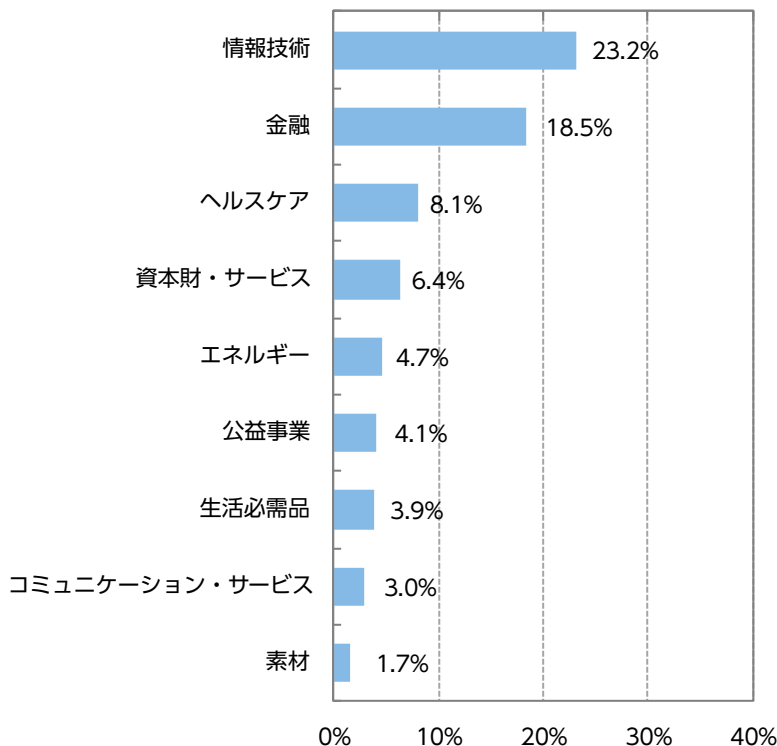
※投資対象ファンドの状況は、当ファンドが主に投資対象とする「LM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）」のマザーファンドの状況を表示しています。

※「証券種別構成比率」、「株式等の業種別組入比率」、「<ご参考>アメリカの主な投資資産の利回り（組入銘柄平均）」および「組入上位10銘柄」は、フランクリン・テンプレートン・ジャパン株式会社の資料（現地月末前日基準）に基づきニッセイアセットマネジメントが作成しています。

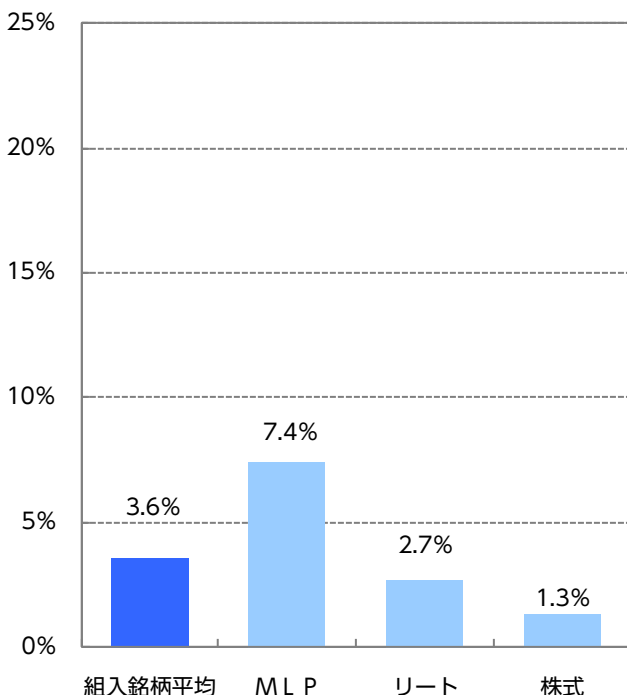
証券種別構成比率



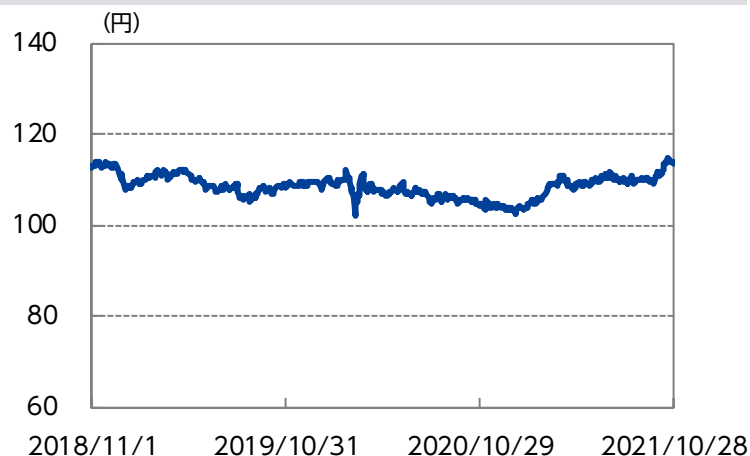
株式等の業種別組入比率



<ご参考>アメリカの主な投資資産の利回り



<ご参考>為替（米ドル・円レート）の推移（直近3年間）



※対顧客電信売相場仲値のデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

※組入銘柄平均：主要投資対象ファンドのマザーファンド組入銘柄の予想配当利回り（加重平均）です。

※MLP：アレリアンMLP指数（予想配当利回り）、  
リート：FTSE NAREIT All Equity REITs指数（予想配当利回り）、  
株式：S&P500指数（予想配当利回り）については、  
ブルームバーグのデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

# ニッセイアメリカ高配当株ファンド

マンスリーレポート  
2021年10月末現在

組入上位10銘柄 (銘柄数：67、組入銘柄の予想配当利回り(加重平均)：3.6%)

順位	銘柄	配当 利回り	比率	種別	業種
				銘柄解説	
1	マイクロソフト	0.7%	6.0%	株式等	情報技術
				米国に本社を置く世界最大級のコンピュータ・ソフトウェア会社。ソフトウェア製品の開発から製造、ライセンス供与、販売、サポートまでを網羅している。	
2	アップル	0.6%	5.9%	株式等	情報技術
				世界をリードする通信機器メーカー。パーソナルコンピュータのMacintosh (Mac)、スマートフォンのiPhone、タブレット型情報端末のiPad等のインターネット・デジタル家電製品を提供。	
3	ブラックストーン	2.2%	5.8%	株式等	金融
				世界最大級の投資ファンド運用会社。プライベートエクイティや不動産などの運用サービスを年金等の機関投資家に提供。	
4	エナジー・トランスファー	6.3%	4.0%	MLP	エネルギー
				米国最大級のMLPの一つで、天然ガス及び石油パイプラインや貯蔵施設等、幅広い中流エネルギー施設を保有・運営する。	
5	エンタープライズ・プロダクツ・パートナーズ	7.8%	4.0%	MLP	エネルギー
				米国のテキサス州ヒューストンを拠点に天然ガス・石油パイプラインを運営する。天然ガス及び石油製品の貯蔵、精製等のサービスも提供。	
6	KKR	3.0%	3.8%	株式等(優先株式)	金融
				プライベート・エクイティ、エネルギー、インフラ、不動産等、様々な資産クラスの運用を行っている投資会社。	
7	マゼラン・ミッドストリーム・パートナーズ	8.3%	3.4%	MLP	エネルギー
				米国最大級の石油パイプラインを有するほか、ガソリン・ディーゼル燃料・原油などの石油精製品の貯蔵も手掛けている。	
8	ブロードコム	4.9%	3.3%	株式等(優先株式)	情報技術
				有線インフラ、無線コミュニケーション、ストレージに関する製品やサービスを提供。	
9	クアルコム	2.0%	2.5%	株式等	情報技術
				ワイヤレス通信機器メーカー。自社開発の無線通信システム「CDMA」などの技術ライセンス供与を行っているほか、多方面に渡るネットワーク技術やワイヤレス・ソフトウェアを提供。	
10	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	2.3%	2.4%	株式等	金融
				世界有数のグローバル総合金融サービス会社。投資銀行業務、資金決済業務、証券管理業務、資産運用業務、商業銀行業務など多岐にわたる金融サービスを提供。	

※比率はすべて対組入株式等(MLP、リートを含む)評価額比です。

※配当利回りは、本レポートの作成基準日における投資顧問会社(クリアブリッジ・インベストメンツ・エルエルシー)の調査による予想配当利回りです。したがって、今後変動する場合があります。

※「当月の市況動向」、「ファンドの状況」および「今後の見通し」については、フランクリン・テンブルトン・ジャパン株式会社の資料（現地月末前日基準）に基づき、ニッセイアセットマネジメントが合理的と判断した上で作成しています。

## 当月の市況動向

当月の米国株式市場は上昇しました。

上旬は、米与野党が米連邦政府の債務上限の一時引き上げで合意し、当面は連邦政府のデフォルト（債務不履行）が回避されるとの安心感が広がったことなどから、株価は上昇しました。中旬に入り、持ち高調整の売りが優勢となる場面が見られましたが、その後は主要企業の決算発表が本格化する中、好調な決算が相次いだことなどから、株価は上昇しました。下旬に入ってから、良好な企業決算への期待感を背景に、株価は上昇基調で推移しました。

当ファンドが投資対象としているMLP（マスター・リミテッド・パートナーシップ）の代表的な動きを示すアレリアンMLP指数は、前月末比で上昇しました。

上旬は、米経済活動の正常化によるエネルギー需要回復への期待などから、原油価格が上昇基調で推移する中、MLP市場は上昇しました。中旬は、世界的なエネルギー不足を背景とした需給の引き締まりが意識される中、原油価格が引き続き上昇したことなどが好感され、MLP市場は堅調な推移となりました。また、主要なMLPによる決算発表を控えて良好な決算への期待が高まったことも、MLP市場を押し上げました。下旬は、エネルギー大手キングダー・モルガンの決算結果が一部で期待されたほど好調ではなかったことなどをきっかけに、MLP市場は下落しました。

同じく投資対象としているリートの代表的な動きを示すMSCI US REIT指数は、前月末比で上昇しました。

上旬は、原油高などを背景にインフレ懸念が高まったことなどから、リート市場は上値の重い展開となりました。中旬は、米主要企業の決算発表などを背景に株式市場全体が上昇する中、リート市場も上昇しました。下旬に入ってから、株式市場全体が堅調な推移となる中、リート市場は上昇しました。

## ファンドの状況

当ファンドは、米国の株式、MLP、リートに投資するファンドです。配当利回りに着目し、相対的に配当利回りの高い銘柄を中心に投資します。また、各銘柄の配当の継続性、配当の成長性、財務の健全性、株価の水準等に注目してポートフォリオを構築します。

個別銘柄については、ブラックストーン、マイクロソフトなどがプラスに寄与する一方、バイアコムCBS、ロッキード・マーチンなどはマイナス寄与となりました。市場予想を上回る決算を発表したマイクロソフトは上昇しました。一方、サプライチェーン（供給網）を巡る問題を背景に売上高見通しを下方修正したロッキード・マーチンは下落しました。

（毎月決算型）

当ファンドの基準価額は、保有銘柄の価格が上昇したことなどから、分配金（50円[税引前]）を含めて、前月末比+505円となりました。

（年2回決算型）

当ファンドの基準価額は、保有銘柄の価格が上昇したことなどから、前月末比+1,410円となりました。

## 今後の見通し

米国経済および株式市場については、短期的にはサプライチェーンの混乱やインフレの動向などに注意が必要なものの、経済活動の正常化に伴う景気の回復期待は根強く、中長期的に楽観的な見方を維持しています。米連邦準備制度理事会（FRB）によるテーパリング（量的金融緩和の段階的縮小）は年内にも開始される見込みですが、テーパリングによる金融市場（金利、株価等）への影響を注視しながら、今後もバランスシートが健全で、潤沢なキャッシュフローを生み出し、配当利回りの水準が高く、長期間にわたり増配が期待できる優良銘柄への投資を継続する方針です。

MLP市場については、足元では新型コロナウイルスの感染動向に依然警戒が必要なものの、経済活動の正常化に伴う景気の回復を背景に原油需要が高まっていることなどから、底堅い展開が予想されます。今後も景気が成長軌道をたどると予想されることから、エネルギー需要は旺盛な状態が続くと見込まれます。こうした環境下、当ファンドではより戦術的なポジション構成を実践しています。バランスシートの強さと資産構成の多様性と質を重視し、ポートフォリオ全体の保有資産の質を高めています。また、長期的には中流事業を営むエネルギー企業とMLPが引き続き魅力的な投資機会を提供すると考えています。

リート市場については、足元で米長期金利が上昇していることに注意が必要です。しかし、経済活動の正常化による景気の回復期待が根強いことなどがリート市場を下支えすると引き続き予想しています。長期的な本質的価値と比較して魅力的な水準にある良質な銘柄への投資機会を引き続き追求してまいります。

## ファンドの特色

①米国株式等に実質的に投資することにより、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざします。

MLPとは

- ・米国で行われている共同投資事業形態の1つで、米国の金融商品取引所で取引されています。
- ・MLPの多くは、天然資源の採掘・精製・輸送等に関連する事業を行っています。

②米国株式等の実質的な運用はフランクリン・リソース・インク傘下のクリアブリッジ・インベストメンツ・エルエルシーが行います。

③「毎月決算型」と「年2回決算型」があります。

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

※将来の分配金の支払いおよび水準について、保証するものではありません。

## 投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

### 基準価額の変動要因

- ファンド（指定投資信託証券を含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。**

### 主な変動要因

株式投資リスク		株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。
MLP投資リスク		ファンドが実質的に投資するMLPは、主として天然資源に関連する事業に投資するため、MLPの価格は、当該事業を取巻く環境・市況の変化ならびに金利変動等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。MLPに関する法制度（税制等）の変更により収益性が低下する場合、MLPの価格が下落することおよび分配金が減少することがあります。
不動産投資信託（リート）投資リスク	保有不動産に関するリスク	リーートの価格は、リートが保有する不動産の価値および賃貸料収入の増減等、また不動産市況や景気動向等の影響を受け変動します。リートが保有する不動産の賃貸料や稼働率の低下、また自然災害等によって保有する不動産に損害等が生じた場合、リーートの価格が下落することがあります。
	金利変動リスク	リートは、金利が上昇する場合、他の債券の利回り等との比較から売却され、価格が下落することがあります。また、金融機関等から借入れを行うリートは、金利上昇時には金利負担の増加により収益性が悪化し、リーートの価格が下落することがあります。
	信用リスク	リートは一般の法人と同様に倒産のリスクがあり、リーートの経営や財務状況が悪化した場合、リーートの価格が下落することがあります。
	リートおよび不動産等の法制度に関するリスク	リートおよび不動産等に関する法制度（税制・建築規制等）の変更により不動産の価値および収益性が低下する場合、リーートの価格が下落することおよび分配金が減少することがあります。
為替変動リスク		原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
流動性リスク		市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

## 分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

ファンドで分配金が支払われるイメージ

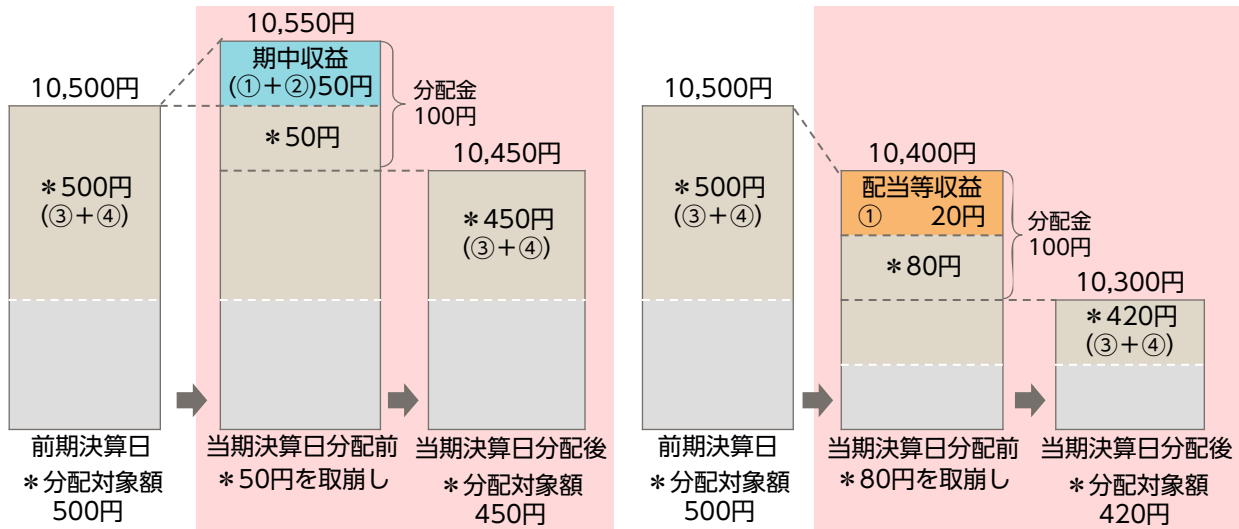


- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合

前期決算日から基準価額が下落した場合



※分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

分配準備積立金：期中収益（①および②）のうち、当期の分配金として支払われず信託財産に留保された金額をいい、次期以降の分配金の支払いにあてることができます。

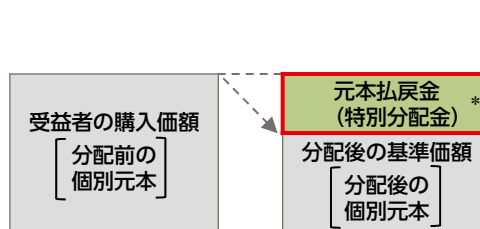
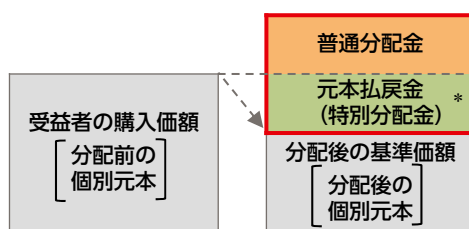
収益調整金：追加型株式投資信託において追加設定が行われることによって、既存の受益者の分配対象額が減らないようにするために設けられた勘定です。

❗ 上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



\* 実質的に元本の一部払戻しに相当する元本払戻金（特別分配金）が支払われると、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。

普通分配金：個別元本（受益者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



## その他の留意点

- ファンドが実質的に投資するMLPにおける税制等に関しては、以下の事項にご留意ください。
  - ・MLPの分配金の受取り時に米国における連邦税として、原則、分配金の21%を上限とした源泉徴収が行われます。その後、通常、年に1度、米国において税務申告を行うことにより、MLPへの投資を通じて得られる収益等に対する連邦税（所得税および支店利益税）の課税額が確定し、源泉徴収された額との調整が行われます。税務申告時に確定した連邦税の課税額が、分配金受取り時の源泉税額より小さくなった場合には源泉税の還付を申請し、源泉税額より大きくなった場合には追加納税を行います。また、連邦税のほかにMLPが事業を行う州において州税の課税対象となります。
  - ・税務申告にともなう還付や納税に備え、原則として、引当額を計上する計理処理を行います。ただし、計上した引当額が、税務申告時に確定した税額と異なることがあります。
  - ・上記の税金の支払い、還付および計理処理により、ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。
  - ・MLPに適用される法律または税制が変更された場合、ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。

## 手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

### お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として7営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。
	申込不可日	申込日または申込日の翌営業日がニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金・スイッチングの申込みの受付を行いません。
決算・分配	決算日	・毎月決算型：毎月28日 ・年2回決算型：6・12月の各28日 ※該当日が休業日の場合は翌営業日となります。
	収益分配	毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。なお、「毎月決算型」は年12回、「年2回決算型」は年2回の決算となります。
その他	信託期間	2028年6月28日まで（設定日：2013年7月10日）
	繰上償還	・投資対象とする「LM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）」が存続しないこととなる場合には、各ファンドを繰上償還します。 ・各ファンドにおいて、受益権の口数が10億口を下回っている場合等には、委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の適用対象です。NISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問合せください。
	スイッチング	「毎月決算型」と「年2回決算型」との間でスイッチング※が可能で、スイッチングの際には、換金時と同様に税金および販売会社が定める購入時手数料・税金がかかります。 ※スイッチングとは、保有しているファンドの換金と同時に乗換えるファンドを購入する取引です。 ●販売会社によっては、どちらか一方のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。

❗ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に <b>3.3% (税抜3.0%)</b> を上限として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に年率1.276% (税抜1.16%) をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。					
		投資対象とする 指定投資信託 証券	<table border="1"> <tr> <td>LM・アメリカ高配当株ファンド (毎月分配型) (適格機関投資家専用)</td> <td>年率0.638% (税抜0.58%)</td> </tr> <tr> <td>ニッセイマネーマーケットマザー ファンド</td> <td>ありません。</td> </tr> </table>	LM・アメリカ高配当株ファンド (毎月分配型) (適格機関投資家専用)	年率0.638% (税抜0.58%)	ニッセイマネーマーケットマザー ファンド	ありません。
		LM・アメリカ高配当株ファンド (毎月分配型) (適格機関投資家専用)	年率0.638% (税抜0.58%)				
	ニッセイマネーマーケットマザー ファンド	ありません。					
実質的な負担	ファンドの純資産総額に <b>年率1.914% (税抜1.74%)</b> 程度をかけた額となります。						
監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.011% (税抜0.01%) をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。						
随時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。また、ファンドの投資対象とするLM・アメリカ高配当株ファンド (毎月分配型) (適格機関投資家専用) において、実質的に投資する投資信託証券には運用報酬等の費用がかかりますが、銘柄等が固定されていないため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。					

- ❗ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ❗ 詳しくは、投資信託説明書 (交付目論見書) をご覧ください。

## 税金

分配時の普通分配金、換金 (解約) 時および償還時の差益 (譲渡益) に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書 (交付目論見書) をご覧ください。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長 (金商) 第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ファンドに関するお問合せ先
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	三菱UFJ信託銀行株式会社	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00~17:00 (土日祝日・年末年始を除く) ホームページ <a href="https://www.nam.co.jp/">https://www.nam.co.jp/</a>

## ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

## 取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合があります。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
auカブコム証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	
株式会社SBI証券	○		関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
岡三オンライン証券株式会社(※1)	○		関東財務局長(金商)第52号	○	○	○	
岡三証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第53号	○	○		○
きらぼしライフデザイン証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第3198号	○			
東海東京証券株式会社	○		東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
とうほう証券株式会社(※1)	○		東北財務局長(金商)第36号	○			
内藤証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第24号	○			○
松井証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
山和証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第190号	○			
楽天証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社きらぼし銀行		○	関東財務局長(登金)第53号	○		○	
株式会社きらぼし銀行(委託金融商品取引業者 きらぼしライフデザイン証券株式会社)		○	関東財務局長(登金)第53号	○		○	
株式会社常陽銀行(※1)		○	関東財務局長(登金)第45号	○		○	
株式会社仙台銀行		○	東北財務局長(登金)第16号	○			
株式会社東邦銀行(※1)		○	東北財務局長(登金)第7号	○			
株式会社富山第一銀行		○	北陸財務局長(登金)第7号	○			
株式会社百十四銀行		○	四国財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社北陸銀行(※2)		○	北陸財務局長(登金)第3号	○		○	

(※1)「毎月決算型」のみのお取扱いとなります。(※2)「年2回決算型」のみのお取扱いとなります。